

記憶に残る私の仕事, そしてあの街

「マンダラの世界」

塚部 彰



10年ほど前に「建築、地域空間システムの研究」に関連してエジプトのピラミッド群の視察を行ないました。その一つは誰でも知っているあのカイロの三大ピラミッド。長く真直ぐに伸びる斜坑階段はまさに異次元への通路でした。スフィンクスを含めた三つのピラミッド相互の配置関係、一つのピラミッドの形状関数、これらは建造目的も含め過去から多くの研究者が様々な仮説をたて研究されておりますが、ピラミッド設計者は地球規模、宇宙規模の空間構成数値を認識していたと思われまふ。まさに地球規模の大地の彫刻でもあり、人類へのメッセージモニュメントでもあります。ナスカの地上絵、イギリスのストーンヘンジもしかり。

また我が日本で言えば伝統的日本庭園も宇宙観、人間観を真正面から捕らえ、見えない法則をこの世に視覚化モデル化したものとして傑出してあります。

振り返りて我が足元を見据えて、私なりの宇宙観、人間観をモデル化したものがこの「マンダラ図」です。このマンダラは私の理解として人間の所在の意味、法則を幾何学図形として表したものです。また人間を考えることはすなわち宇宙の根源、成り立ち、法則を考えることと同源です。本来カタチ、図形として表現することはできないものですが、この地球上に生きるものとして、空間と時間の桎梏の中において、あえてこれらの法則を目に見えるものとしてモデル化したものです。これまで人類は様々な表現方法により試みていますが、これもそのうちの私なりの表現（試み）です。一言で言えばこの世は意識が物質化したバーチャルな世界だということか。

